

尾瀬への入山 きょうから

20.7.1 読売新聞 福島版

山小屋1/3は今季休業

檜枝岐村側

新型コロナウイルス感染拡大防止のため閉鎖されていた檜枝岐村側からの尾瀬への入山が、7月1日から可能となる。山小屋の大部分も営業を再開するが、3分の1は「従業員確保や感染防止が困難」と、今シーズンの休業を決めた。再開する山小屋では感染防止対策を徹底し、環境への配慮から使用を自粛してきた「せっけん」による手洗いを解禁する。

(堀内佑二)

尾瀬山小屋組合と尾瀬保護財団によると、29日時点で、21軒中8軒の山小屋が休業する。御池ロッジ、第

一長蔵小屋、尾瀬小屋、元湯山荘、竜宮小屋、尾瀬口ツジの6軒は、新型コロナウイルスの影響を理由に挙げる。御池ロッジは例年、もう一つの村営山小屋「尾瀬沼ヒュッテ」と合わせて十数人のアルバイトを4月末、10月下旬に雇用する。今年も3月から募集したが、再開の見通しが立たず、採用を断らざるを得なかった。「働いていない人に数か月も公費で報酬を払うのは村民の理解が得られない。無報酬のまま待ってもらったこともできなかった」と支

配人の星睦彦さん(50)。尾瀬沼ヒュッテは今季、村民だけで運営するという。定員約200人の尾瀬小屋は、3月下旬に今季の休業を決めた。マスクや消毒液の確保のめどが立たなかったためだ。勝田伸一社長(51)は「ヘリで物資を荷上げしており、こまめに買い足せない」と話す。300人以上の団体予約もあったが全て取り消したといい、勝田社長は「経営には大打撃だが、感染を防げないと宿泊者の命にかかわる」と強調する。

コロナ対策「せっけん」解禁

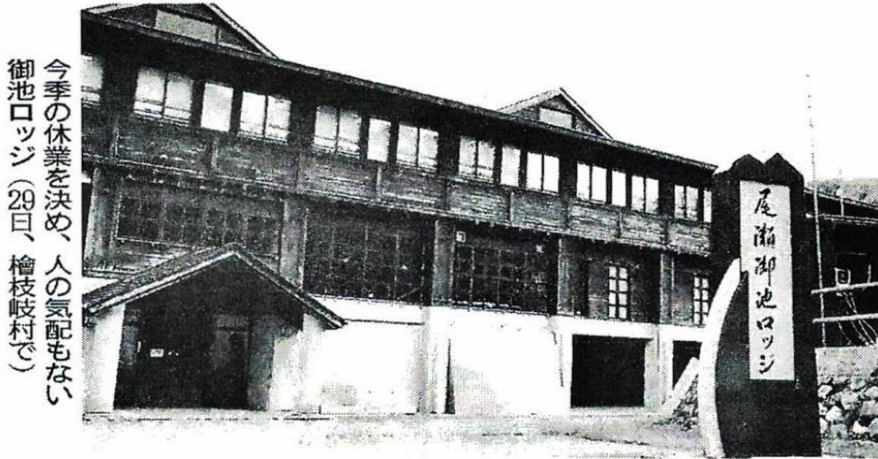
一方、再開する山小屋は、同組合が定めた指針に沿って、消毒や換気、マスク着用などの対策を進める。その中には、「法度だった」せっけんによる手洗いも含

始以来最低だった。今年は激減が見込まれ、清水秀一組合長(61)は「せっけんを使っても、合併浄化槽で十分処理できる」と理解を求める。

また、1995年までに全ての山小屋に合併浄化槽が設置され、処理水は域外に放出されている。入山者が急増した時代、生活排水が急増した時代、生活排水で水質が悪化した反省で、せっけんやシャンプーを使

われないのが尾瀬でのルールだが、今回は感染防止を優先させた。

山小屋の一部休業の影響で、遭難時の救助体制も手薄となる。星さんは「入山者の協力がないと感染防止はできない。無理のない行程で、いつも以上に安全に気をつけて来てほしい」と呼びかけている。



今季の休業を決め、人の気配もない御池ロッジ(29日、檜枝岐村で)